Takehito Shiina Portfolio

2006-2009

photo: Masaru Yanagiba 柳場大

物質とは我々が映像と呼ぶものに等しい。

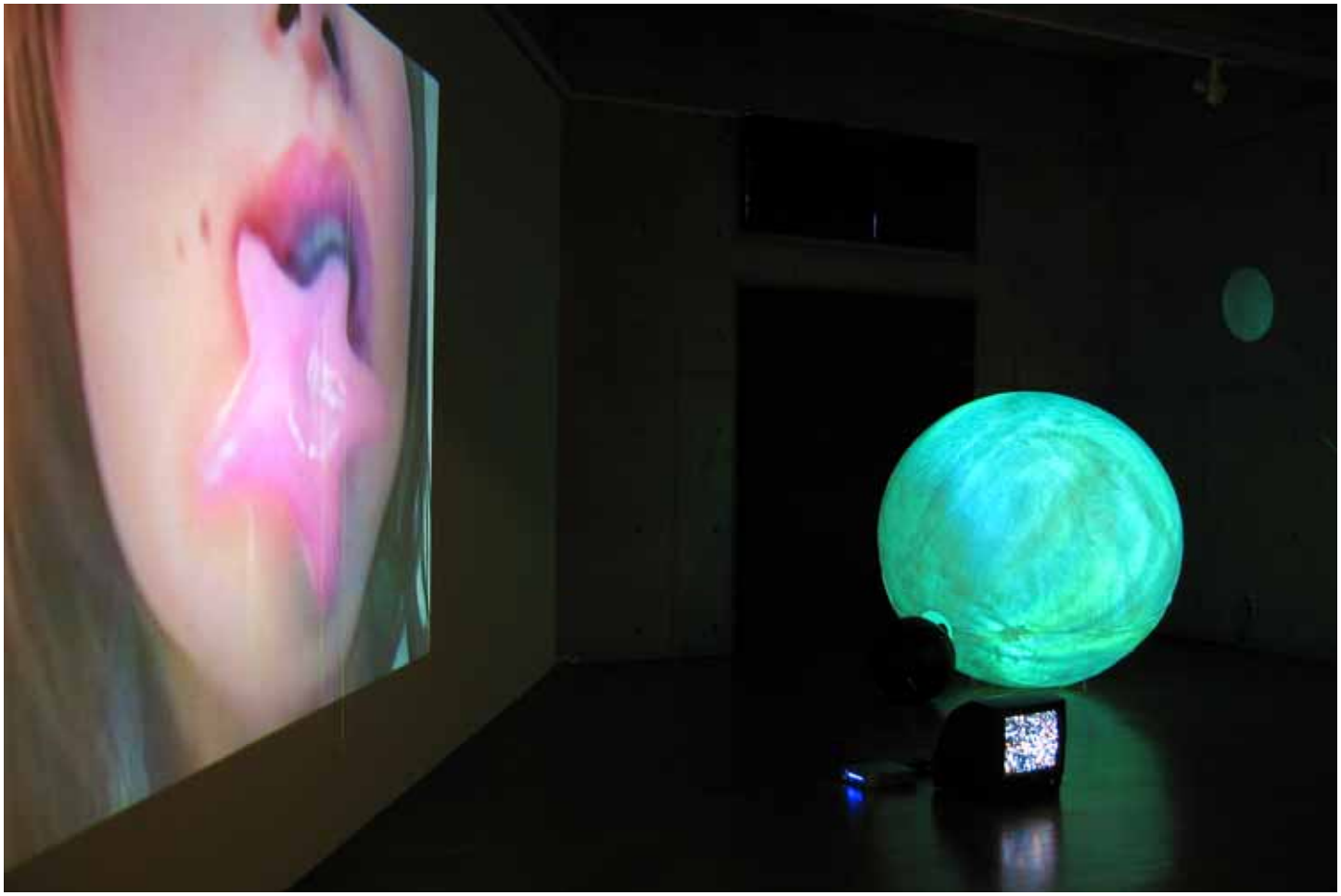
例えば子供たちに真実を伝えようとする場合、「遠くに光る星々も本当は物質でできている」という言い方よりも、「君の隣で手をつないでいるお友達も本当は映像でできている」と言ったほうが現実を正確に表しているように感じる。

photo: Masaru Yanagiba 柳場大

この作品は次のような経緯で制作された。
恋人と別れて 1 年ぐらい経った頃、突然彼女の悪夢を見た。そこで思い出したのが、後に残され放って置かれた 700 枚を超える彼女の写真。これらを全てパソコンに取り込み、この写真群を素材とした抽象的なモーショングラフィックス動画を制作した。その動画を元恋人の身長と同じ長さの直径（160cm）を持つ FRP 球体に背面投影している。2 台のプロジェクターを用いて、球体の両側から向かい合わせに投影しているので、360 度どこからでも途切れることなく映像を眺めることができる。「Black Opal Portrait」と名付けられたこの球体作品を輝く星に見立てている。展示ではさらに、交際中に彼女をモデルにして描いていたドローイングを部屋の周囲に飾っている。
悪夢を克服するために、その女性には星になってもらうことにした。

Starring You

2006 年
w341×d668×h230cm
個展
switch point（国分寺、東京）
企画：深井聡一郎（彫刻家）
協力：キリンビール株式会社



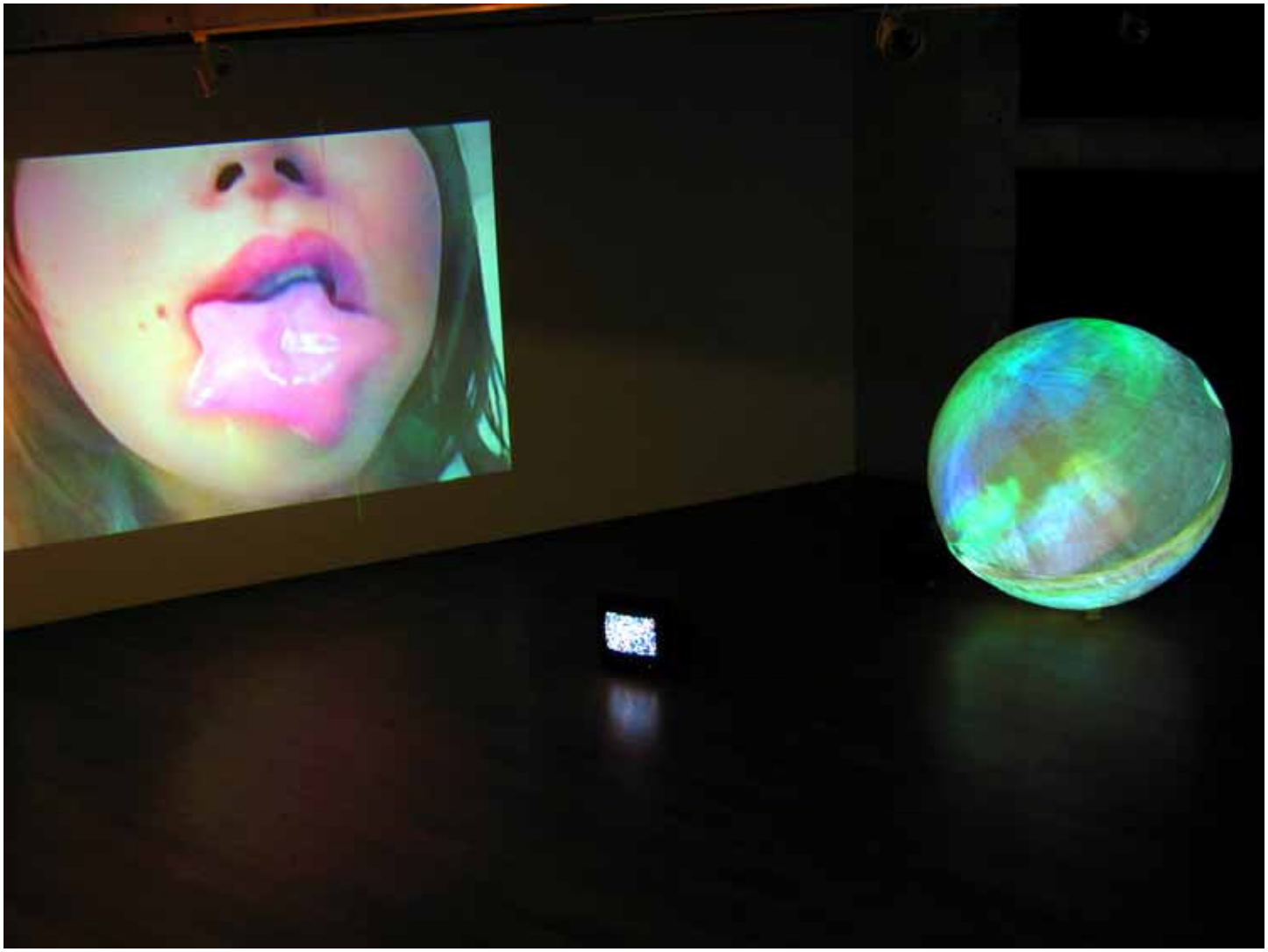
Summer Weeds

What's Art Gallery（仙台）での2006 年の個展。同年の個展「Starring You」（switch point、国分寺）を発展させたもの。私的な夢、悪夢、忘却に関するモーショングラフィクスを用いたいくつかの作品によるインスタレーションである。展覧会名の「Summer Weeds」は松尾芭蕉の有名な俳句「夏草や／兵どもが／夢の跡」からの引用である。

モーショングラフィクスによる抽象的な映像が、直径 1.6m のプラスチック球体の内部に投影されている。

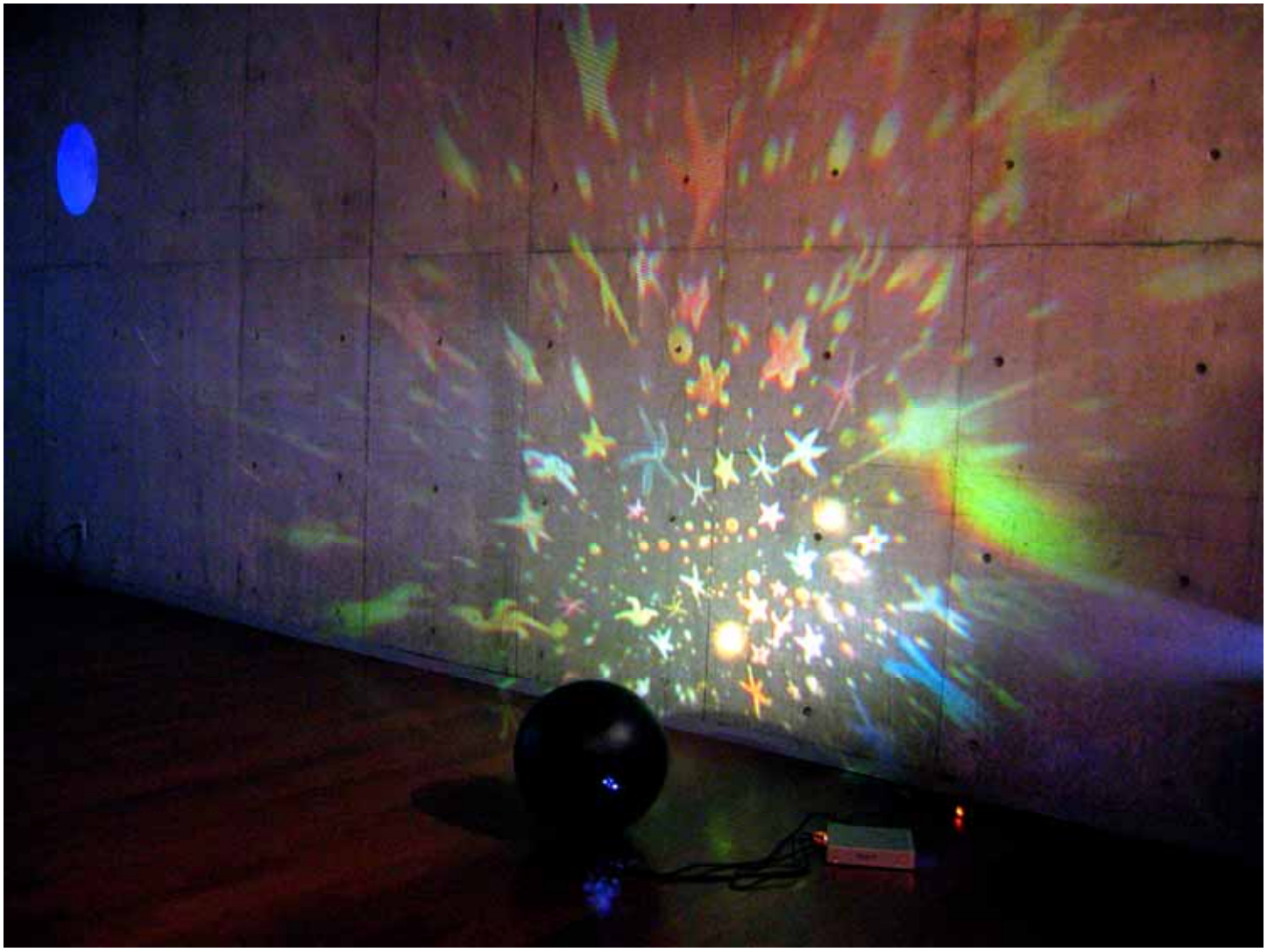
Black Opal Portrait

2006 年
2210×2265×1620mm （幅×高さ×奥行き）
FRP、ビデオプロジェクター、DVD プレーヤー、mpeg2（12 分）
個展「Summer Weeds」
what's art gallery （仙台）



Summer Weeds

2006 年
w800×d890×h400cm
個展
what's art gallery（仙台）
opening act: Shinya Takatori (DJ / sound performance)



壁面に投影された映像は魚眼レンズによって歪められている。

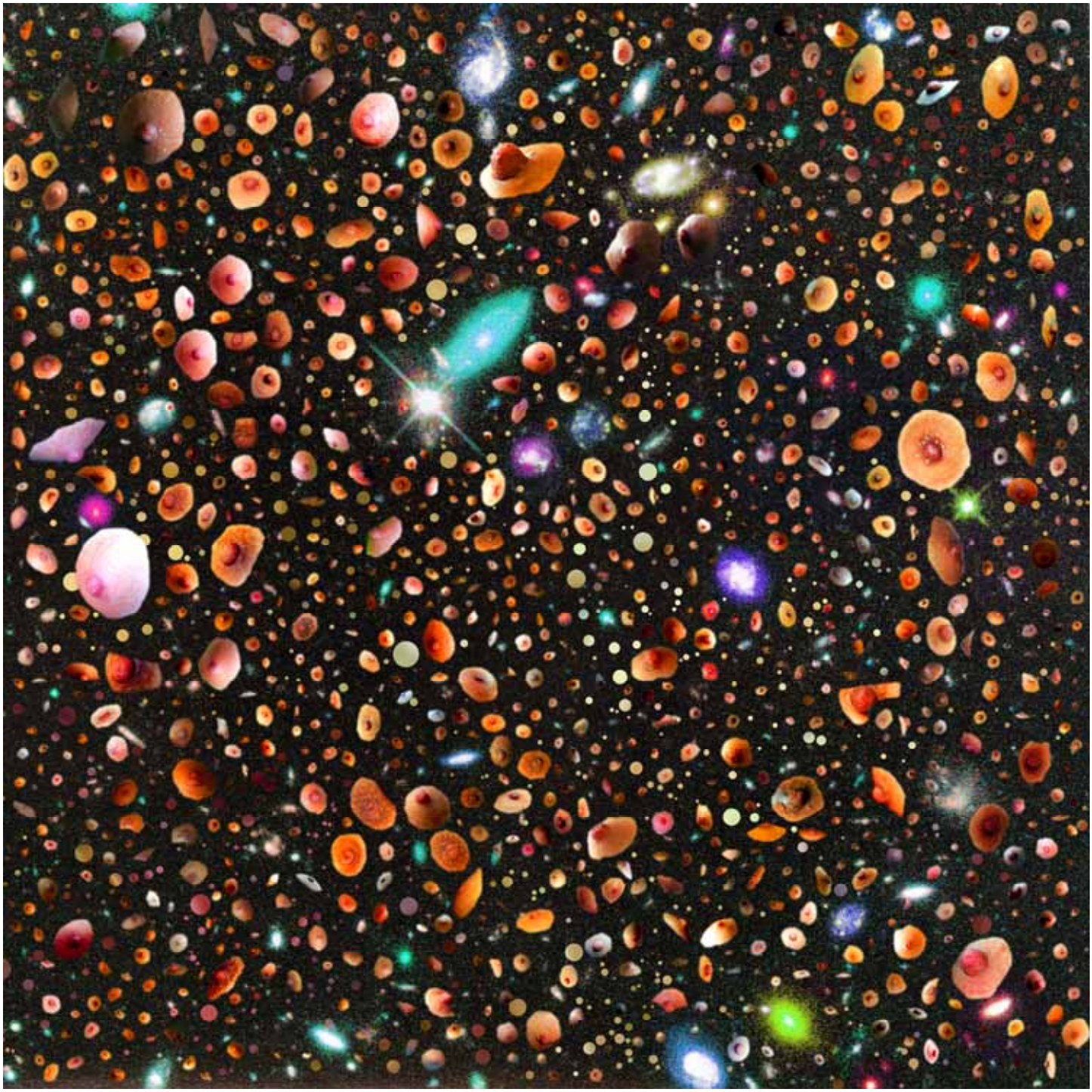
舌禍 Y

2006 年
FRP、プロジェクター、DVD プレーヤー、mpeg2（4 分 21 秒）
個展「Summer Weeds」
what's art gallery （仙台）

前頁の個展「summer weeds」のインスタレーションに使用された映像作品。ゆっくりと回転する星空に混じってヒトデの群れがうごめいている。

舌禍Y

2006 年
4 分 21 秒、DVD



前頁の映像作品「Zekka Y」を発展させたもの。ゆっくりと回転する深宇宙を背景に、無数の乳首が優雅に漂っている。かくも宇宙はエネルギーに満ち溢れている、ということなのかもしれない。

Milky Universe

2007 年
4 分 21 秒、DVD

女性の舌が星形に変形するモーフィング映像。

舌禍 X

2006 年
mpeg2（1 分）
個展「Summer Weeds」
what's art gallery （仙台）

（右ページ）

飛び道具

2006 年
158×228×100mm （幅×高さ×奥行き）
木、海産物、粘着シート
個展 「Summer Weeds」
what's art gallery （仙台）

僕は夢の中でこれが夢だと気づくとすぐに目がさめてしまいます。ところがその夢では、夢だと気づいたのに目がさめなかったのです。そこでこれが夢か夢でないか夢の中で確かめようとしました。なぜだかわかりませんが、木の木目を確かめることによって夢か現実か判断できると思いました。そばに木製のテーブルか何か家具のようなものがあって、その木目をまじまじと見ました。それは見る限り本物の木の木目でした。それから木目の表面を手で触れて撫でてみました。本物の木の感触がしました。叩くと木の音もします。ニスなど塗られていないようで、表面は多少ざらざらしていて、撫でていると指にとげが刺さりました。指先に軽い刺激感があり、血が出ました。それを舐めると血の味がしました。それでこれは夢ではないと結論付けました。ところが目が覚めてみると、それは夢だったのです！僕はあんなに念入りに確認したのに、それが夢だと知って、激しい衝撃を受けました。この夢から僕は多くを学びました。その一つは、「直感は五感より正しい」ということです。夢の中ではじめに直感的にこれが夢だと気づいたとおりにしていれば、誤った判断をしなくて済んだのです。もうひとつは、見ることも触れることもその他の五感も、知覚するという点では等価であるということです。僕は彫刻を学んでいたので、錯視などもあるし視覚よりは触覚のほうがより確かなのではないかと漠然と思っていました。ところが全然そんな事はありませんでした。知覚によっては本当の現実を認識することはできませんでした。知覚は限られた能力なのだと実感しました。(2006 年 10 月 30 日)

夢の木目

2007 年
46×37×2.5cm、37×46×2.5cm（右ページ）
粘着シート、木枠

夢の木目

2007 年
粘着シート、額縁
37×46×2.5cm （幅×高さ×奥行）

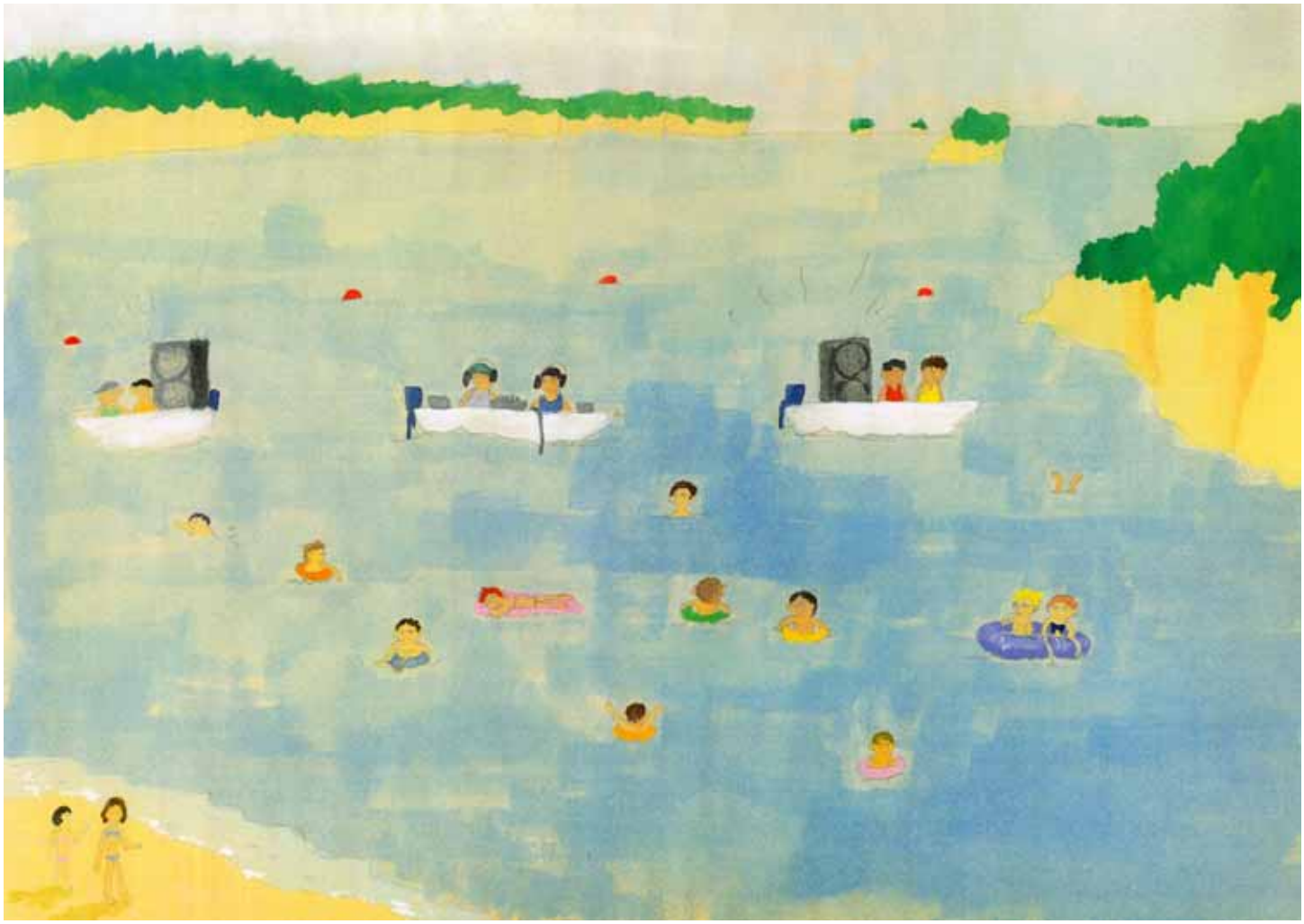
塑造で小さなものを作っている。

レッドミルクのための習作

2007 年
粘土
いずれも掌サイズ
仙台

Urato Drift (2007-)

日本人初の世界一周者である仙台藩出身の船乗りを囲み、地元で音楽と芸術を通して祝福するビーチパーティを開催するプロジェクト。船乗りたちは、200年ほど前の鎖国時代、嵐に会って遭難し、漂流の末、図らずも世界一周してしまった4人の日本人である。このビーチイベントの会場となるのは、津太夫（つだゆう）を初めとする彼ら漂流民の故郷である宮城県の浦戸諸島。静かで時間のゆったり流れる島である。おもに仙台周辺を活動の場とする15組以上のDJ、演奏家、バンドなどがこのプロジェクトに賛同し参加した。椎名が、このイベントのディレクターとして企図したことは、死んでしまってもうこの世にいない人やまだ一度も会ったことのない人と、人々はどのようにかして何かを共有することができるだろうか、ということだった。鎖国時代の漂流民が世界一周し故郷に戻ってくるまでの期間と同じく、このイベントも今後13年間毎年夏に浦戸諸島で開催される見通しである。



A Day / Urato Drift 2007 のためのプラン・ドローイング、紙に水彩、351×241mm

椎名が企画した2007年のこのイベントの目玉は、大きさ9mx7mの運搬船の上に音響機材をセットし、電子音楽のライブを行うというもの（上のドローイング参照）。オーディエンスも浮き輪などで海に浮かびながら音楽を鑑賞する。しかし、ちょうどその週末に台風が接近し、船上ライブは残念ながら中止となってしまった。歴史は繰り返される。私たちのパーティーも漂流を開始したようだった。2007年には、10人以上のDJ、3組のアコースティック・グループ、3人の美術家が参加し、200人近くの観客があった。すべて無料のフリーパーティーだった。

A Night

Urato Drift 2007 のためのプラン･ドローイング
紙に水彩、351×241mm

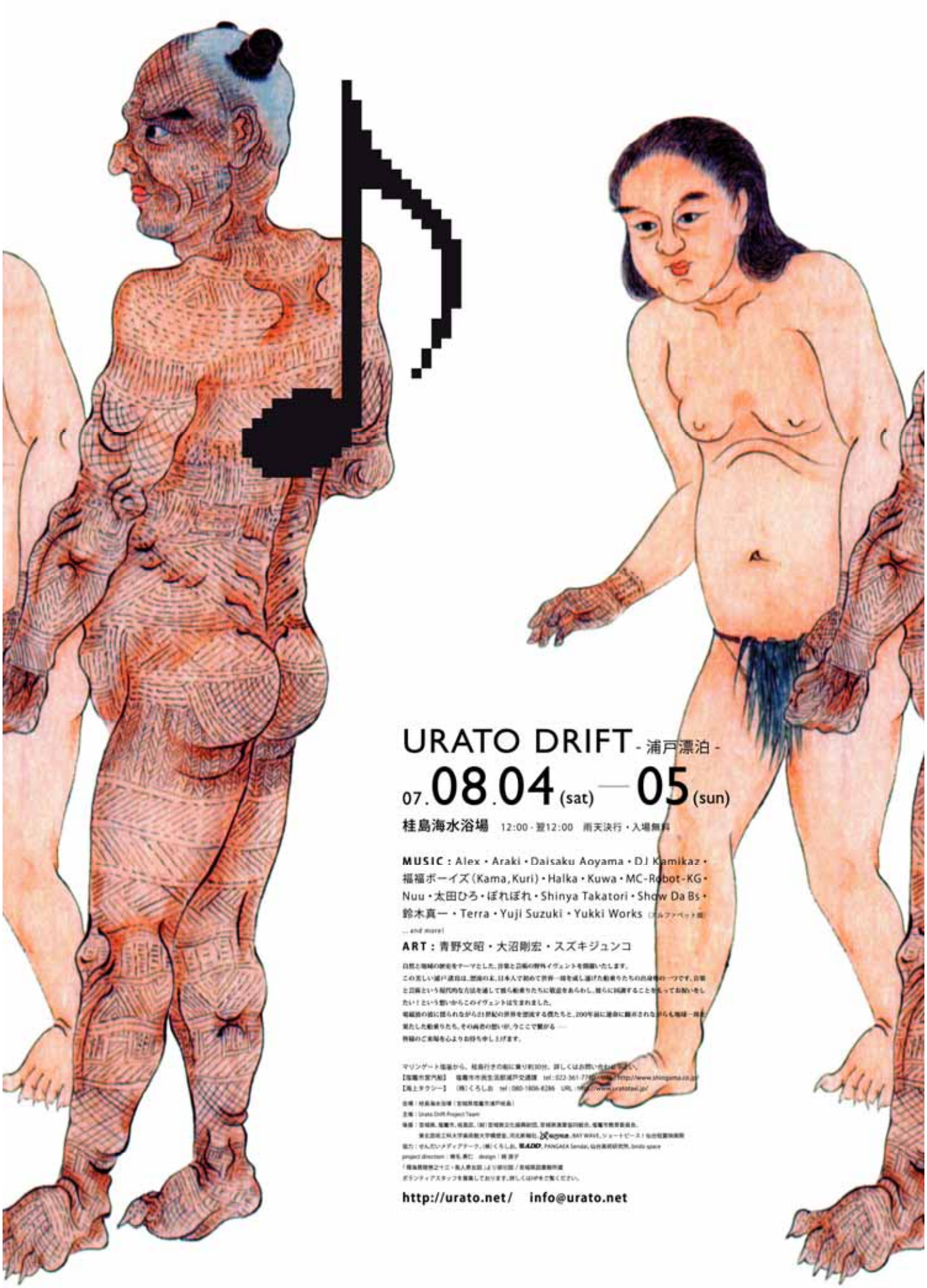
日没後の海の家と DJ ブース。

電子音と波の音を同時に聞く。波打ち際にて。

Urato Drift 2007 フライヤー / A4、デザイン：根朋子、ディレクション：椎名勇仁

ここにあるのは、Urato Drift 2007 のフライヤーとポスターである。全身入れ墨の人物像は、南太平洋マルケサス諸島に住む人々の様子。津太夫（つだゆう）ら漂流民が日本への帰路に立ち寄った当時の風俗である。大槻玄沢が仙台藩から依頼されて漂流民に事情聴取した際の世界一周公式漂流記録『環海異聞』（1807 年成立、宮城県図書館収蔵）に載っている原図を使用している。デザインを根朋子が担当。

Urato Drift 2007 ポスター / A4、デザイン：根朋子、ディレクション：椎名勇仁


URATO DRIFT - 浦戸漂泊 -
07.08.04 (sat) — 05 (sun)
桂島海水浴場 12:00 - 翌12:00 雨天決行・入場無料
MUSIC : Alex・Araki・Daisaku Aoyama・DJ Kamikaz・福福ボーイズ(Kama, Kuri)・Halka・Kuwa・MC-Robot-KG・Nuu・太田ひろ・ぼれぼれ・Shinya Takatori・Show Da Bs・鈴木真一・Terra・Yuji Suzuki・Yukki Works
... and more!
ART : 青野文昭・大沼剛宏・スズキジュンコ
http://urato.net/ info@urato.net

消えぬ魔球

2007 年
粘土、1000g
「『望来現象』-砂浜現代美術教室-PRA camp07-」
滞在制作
PRAHA Project
北海道石狩、望来

再会できなかった人や出会うことのなかった物事について。
それらは確かに存在し、成長したり衰滅したりして変化しているのだが、
今回出会うことがなかった。
望来は、今でも石油を産出するそうだが、僕はその油泉を探しもしなかった。

粘土の塊を持ってやって来た。それは記憶の塊だ。
僕は、その塊を望来の海辺で洗った。
波打ちぎわに転がる貝殻の欠片や小石や海藻が、塊に付着しては洗い流されていった。
海鳥が作業の様子をじっとうかがっていた。
僕が離れると、その塊に近付いて来て、じっと鑑賞していた。

裸で海に潜る。

2007 年 8 月 25 日

河童複合 (2007)

河童体験情報を集め、その情報に基づいて現代の河童像を作るプロジェクト。
河童目撃者の証言や、目撃者によって描かれた絵、河童に関する遺物などとともに、河童と呼ばれたことのある者をも「河童体験者」とみなし、得られた情報を河童像に合成し、視覚化していく。おもに動画と彫刻から構成されている。鎖国時代の河童体験者の聞き書き本「河童聞合」(1805 年頃)、及び当時の河童研究書「水虎考略」(1820 年)、の方法論を引用、現代の状況の中で模倣している。
このプロジェクトは、2007 年、茨城県守谷市、ARCUS Project での滞在制作活動である。茨城県は河川、湖沼などの水環境が豊富な土地である。そのような地域の自然環境が人々の想像力を刺激し、水棲生物の一種である河童伝説が豊富に生み出された理由の1つとなっていると思われる。
伝統的な河童像については 44 ページを参照。

指を高速に動かすことで、指の間に残像が残る。その残像が水かきに見えるのかもしれない。

（左ページ）

Work for Water People
水辺の人々のための作品
2007 年
キュウリ、紐、ポリウレタンフォーム
23×7.5×10cm （長さ×高さ×幅）

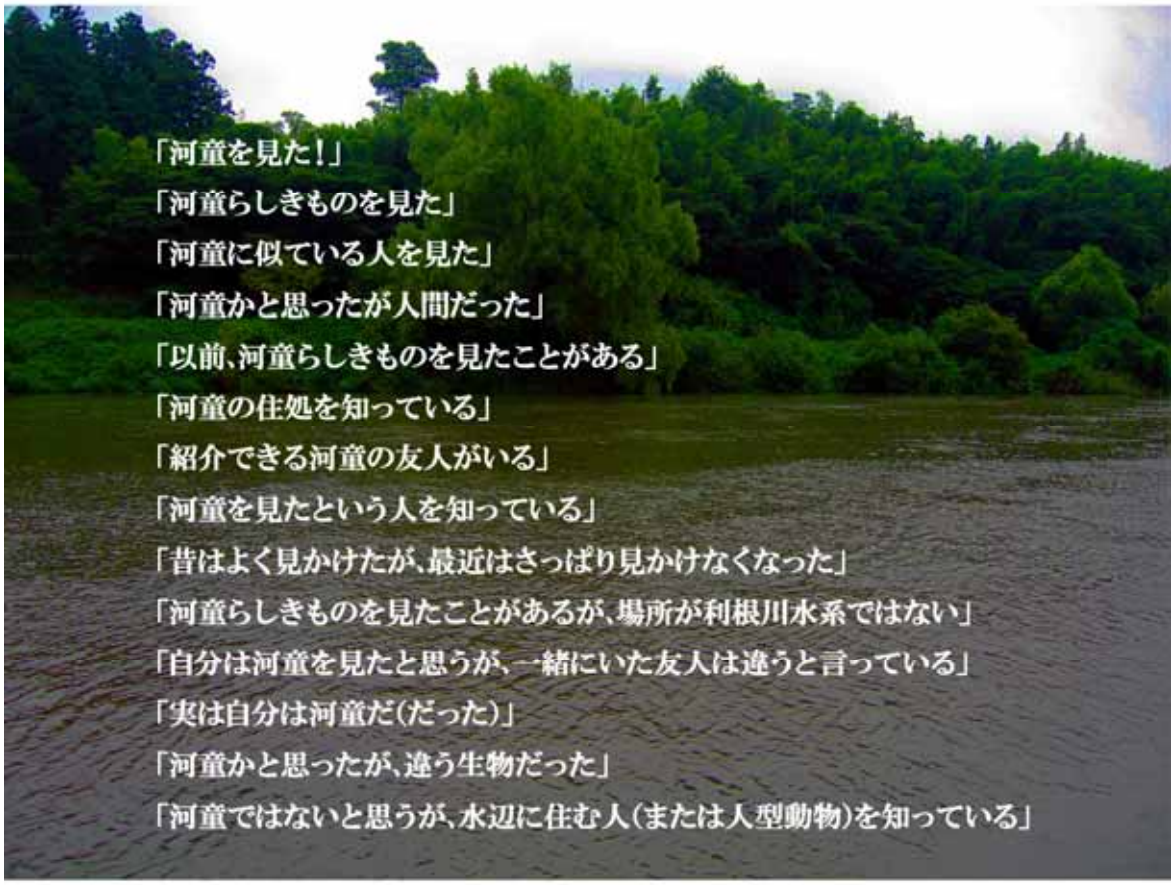
（上）

Unseen Web
見えない水かき
2007 年
45 秒の映像

捜索へのご協力のお願い

河童がいない。

利根川・渡良瀬川・鬼怒川・小貝川・霞ヶ浦・牛久沼ほか、利根川水系に居住するといわれる河童の目撃情報を集めております。



・・・など、あらゆるレベルの情報を大募集いたします。
収集された情報に基づき、河童族の肖像彫刻を制作する予定です。
お心当たりのある方は、E メール・FAX・電話・手紙などでお知らせください。
写真・ビデオ・イラストなどございましたら大歓迎です。
当方が重要と判断するケースでは、取材にお伺いいたします。
捜索へのご協力どうかよろしくお願いいたします。

宛先・・・
〒302-0101 茨城県守谷市板戸井 2418 アーカススタジオ
Tel: [illegible] （担当：椎名） Fax: 0297-46-2600
Email: info@shiinatakehito.com
http://www.arcus-project.com/ http://shiinatakehito.com/

ARCUS
Artist in Residence — IBARAKI

このようなフライヤーを制作し、河童体験情報を募った。

河童がいない。
2007 年
A5、チラシ、3000 部

映像作品「Sketches for Kappa Complex」で、集められた河童の視覚イメージは、モーフィング技術によって順次合成されていく。上の図では、時間は左から右へと進行する。10 個の河童情報が寄せられたため、合成は 10 段階に分かれている。右下の河童像が最終的なイメージとなった。

Sketches for Kappa Complex

河童複合のための素描

2007 年
モーフィング動画
3 分 53 秒、DVD

Hearing about Kappa
現代河童聞合 (げんだいかっぱききあわせ)
2007 年
ドキュメント動画
105 分、DVD

映像作品「Hearing about Kappa」は、河童体験者への取材を記録したドキュメントである。
河童の足跡を見つけた 2 人の少年、子供の頃に見た河童について真剣に語る大人たち、河童の右手のミイラ、河童呼ばわりされたことのある男性、自分の手に水かきを想像して絵に描くワークショップの模様、県知事への河童質問、老婆による河童伝説、河童池で遊ぶ子供たち、など単に目撃情報を集めただけにとどまらない内容となっている。寄せられた河童情報は検証・分析などされず、ありのままの姿で示される。

ワークショップおえかきあそび「見えない水かき」
2007 年 10 月 21 日
アーカスプロジェクト･レジデンスプログラムの一環として催されたワークショップ
場所：守谷市中央公民館 / 守谷市主催･市民フェス「彩都ピア守谷」にて
内容：自分の手の「水かき」を想像して描く
対象：児童

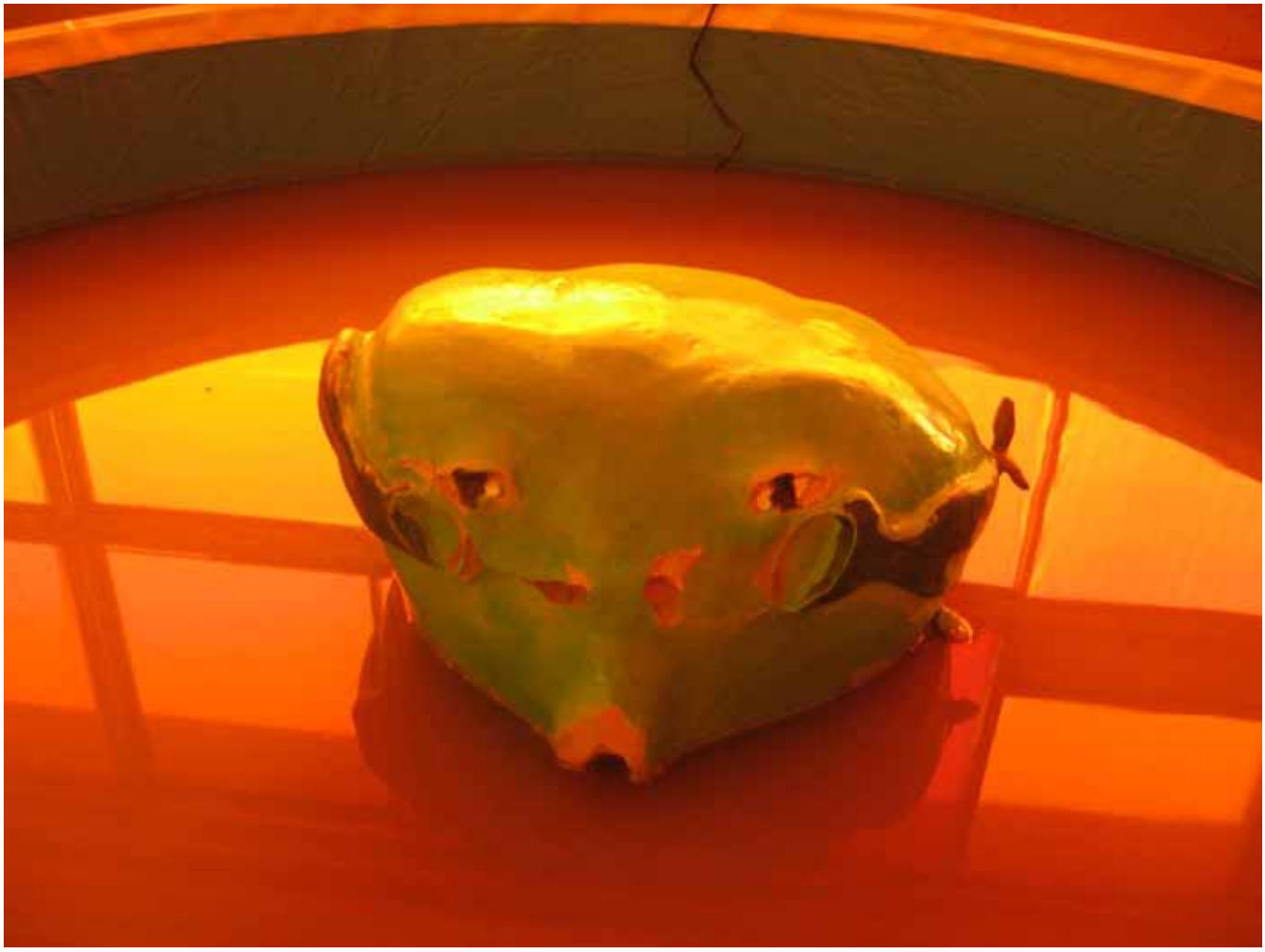
Kappa far beyond the sea

河童は海の向こう

2007 年
インスタレーション
一連の彫刻作品の他、写真、原画などの資料、布、厚紙、セロファン、
ビデオプロジェクター、ビニールプール、泥、水、鯉、ススキ
「オープンスタジオ」アーカススタジオ（茨城県守谷市）

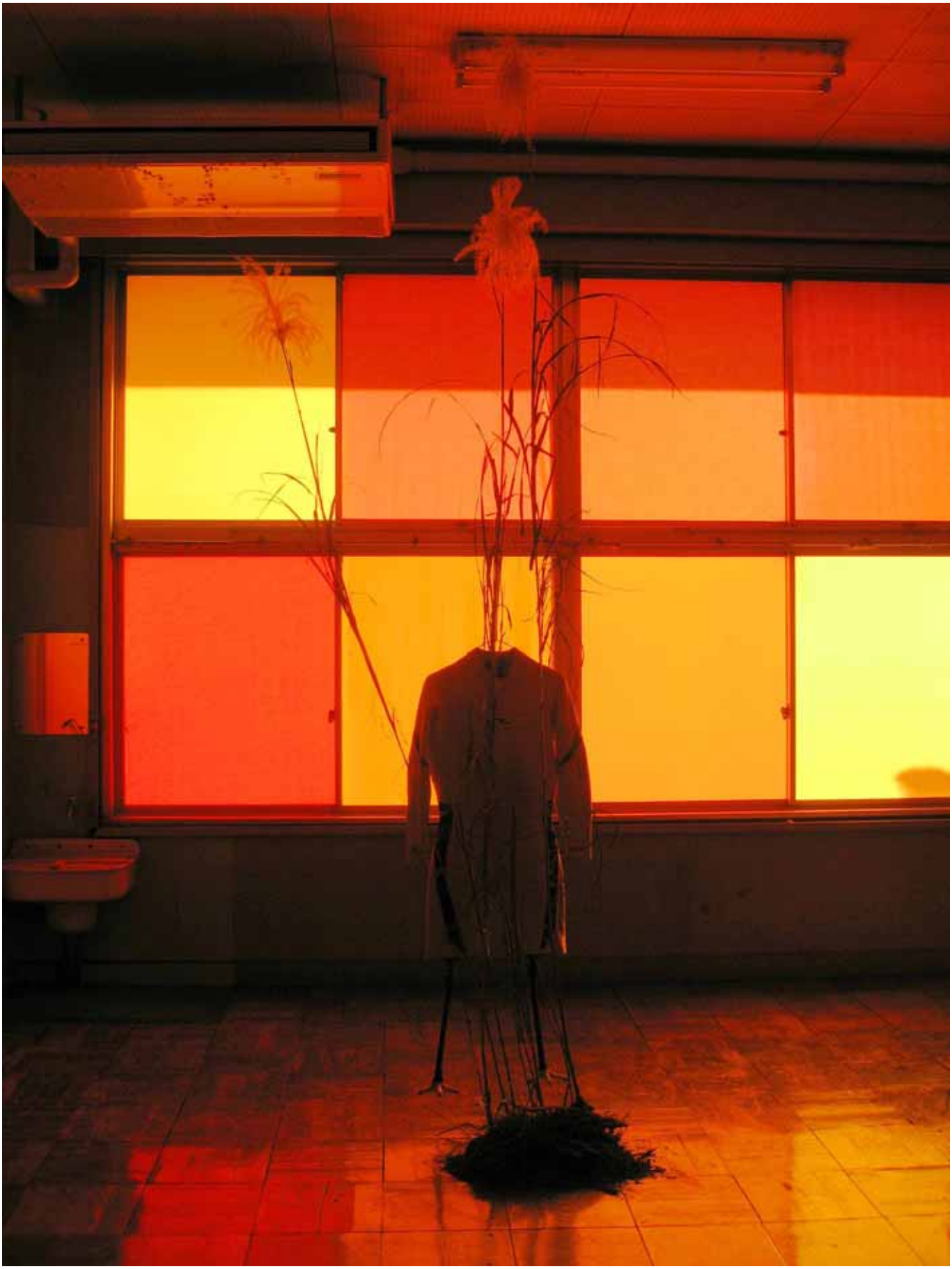
合成により生み出された河童像の彫刻や映像作品などが展示されている。部屋の窓をオレンジ色の布で覆い、独特の光環境を作り出している。これは、「河童は夕暮れ時に多く出没する」という茨城県の河童伝承に基づき、夕暮れ時のような光を表現しているもの。

Kappa Complex A (頭部)
2007 年
石膏に着彩、ビニールプール、水、泥
58×55×41cm (頭部) , 220×220×40cm (水槽部分)



足跡を発見した二人の少年が想像で描いた河童像の合成に基づく造形作品。

Kappa Complex B
2007 年
ウェットスーツ、粘土に着彩、ススキ、雑草、土
130×80×306cm



Kappa Complex C (等身)
2007 年
石膏に着彩、泥
90×80×130cm
21 世紀の合成河童像

Kappas also live in the sea

河童は海にもいる

2007 年
インスタレーション
彫刻：**Kappa Complex A, B, C**
（石膏に着彩、ビニールプール、水、泥、ウェットスーツ、粘土に着彩、ススキ、雑草、土、）
ドキュメント動画：**現代河童聞合**（げんだいかっぱききあわせ）
（105 分、DVD、DVD プレーヤー、モニタ）
写真、原画などの資料、布、厚紙、セロファン
「Playroom Opening Exhibition」遊戯室、水戸

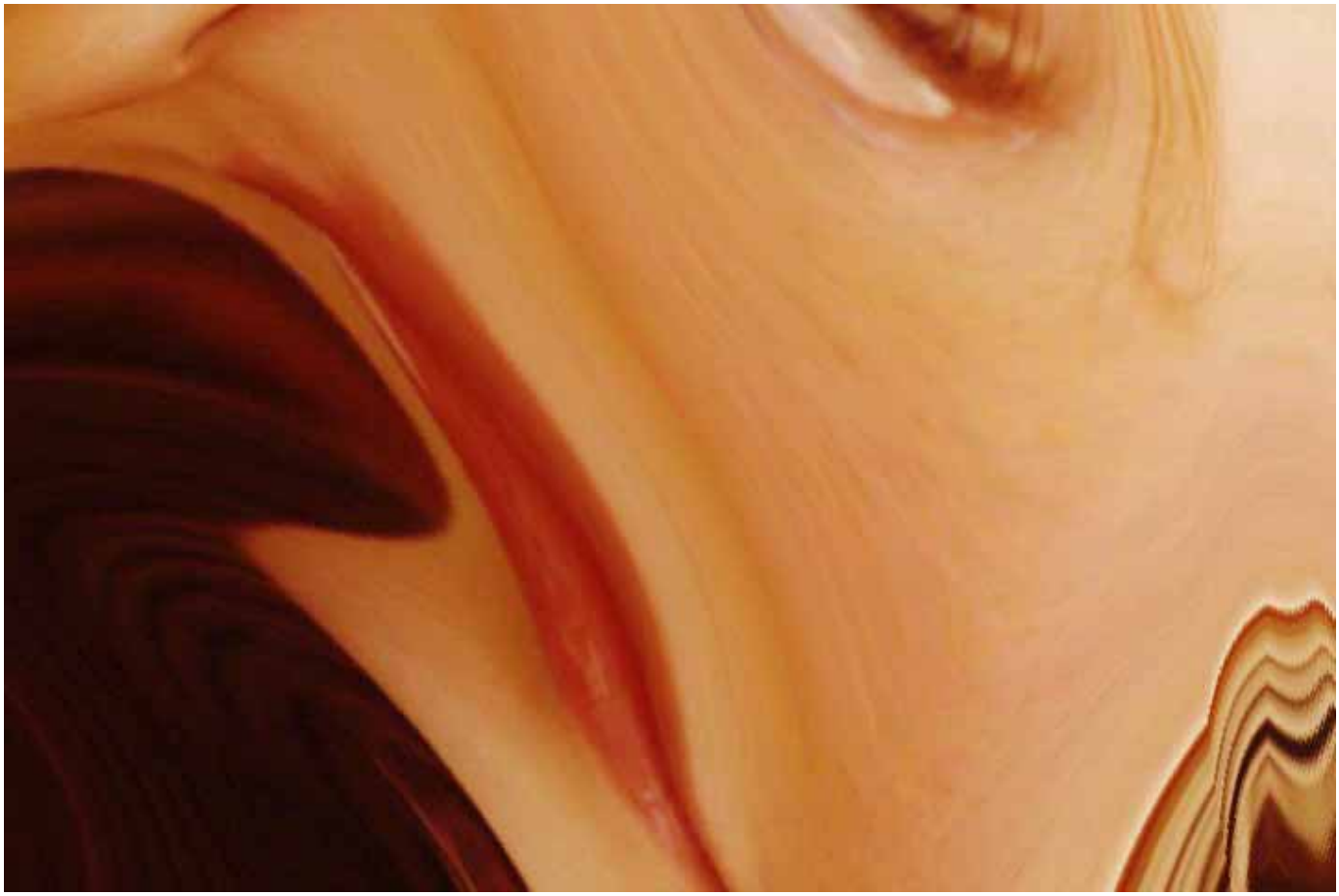
21 世紀の河童像（頭部） 合成原画（左）を立体化したもの（右）

河童について

「河童とは我々人間自身のことだよ。」関口鉄夫（牛久市観光アドヴァイザー）

河童は古くから日本全国に分布し、川・沼などの水辺に住む小型の妖怪である。地域によって容姿、性質、呼び名は異なるが、典型的な河童の身体特徴は、人間の子供ほどの体格で身体全体がぬるぬるしており、頭に皿と呼ばれるくぼみ、頭髪は放射状、口はくちばし状、背中に甲羅、手足の指の間に水かき、を持つとされる。泳ぎが得意で、キュウリを好んで食べ、畑の野菜を盗む、人間の子供や馬を川に引きずり込み溺死させる、女性に痴漢・強姦を働く、人間に際限なく相撲を挑み続ける、などの行動をとる。説話では、最後には人間に捕らえられて許しを請い、許してもらったお礼に秘伝薬や新鮮な魚を贈る、という結末が多い。研究家によれば、現在知られている河童の典型的なイメージは、鎖国時代の 18 世紀末に、それまでの伝説・噂話・目撃談・体験談など複数の異なる情報起源を、本草家（当時の博物学者）らが統合し成立したと言われている。
以下に河童のイメージの基になっているものを列挙する。

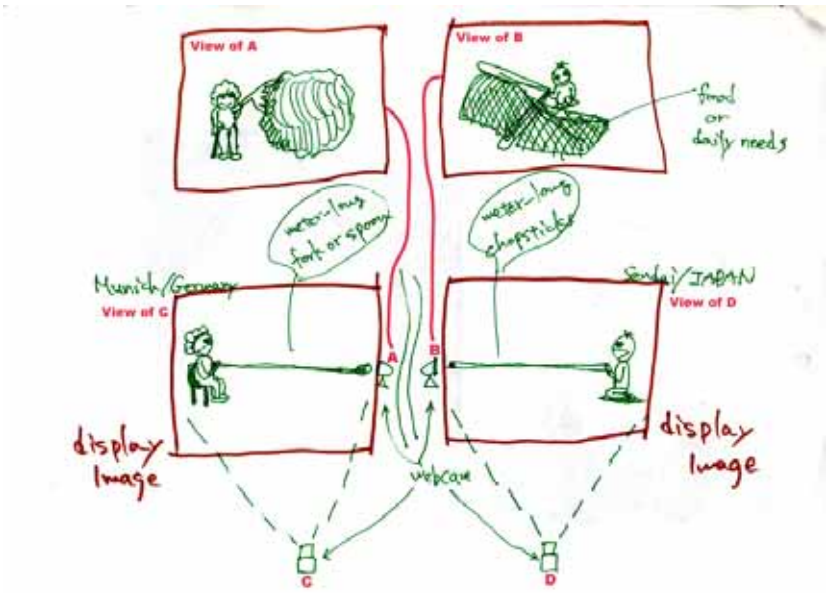
神話的要素：蛇・竜・ワニ（怪魚）など、東洋の水神
動物的要素：猿・カワウソ・スッポン・カメ・タヌキ・キツネ・カエル・イヌ・ネコ
人的要素：水死した子供・奇形児・被差別民・流浪民・キリシタン宣教師・山人・落武者・わら人形



記憶と忘却、及び記録と償却に基づく肖像。
この映像作品は、「Black Opal Portrait」（2006 年制作）に使用された映像作品の別バージョンである。

Z=0.00
2007 年
DVD、5 分
「VOCA 展 2008 —新しい平面の作家たち—」に出品された映像作品。
上野の森美術館、東京

在ミュンヘンのアーティスト、ジュディス・エッガーとのパフォーマンス。インターネット回線を利用したコラボレーションで、サイバースペース上で 24 時間を共に過ごすというもの。エッガーはミュンヘンのメディア施設 ZKMax から、椎名は仙台の自宅から、インターネットに接続した。パフォーマンス中は、会話をしたり、一緒に楽器を奏でたり、いつもどおりにごく普通に過ごす。そして食事の際は、長い箸を用いてモニタ越しに互いに食べさせっこをする。地獄や極楽では人々は長い箸を使って食事をする、という仏教の逸話とされるものに因む。この逸話を椎名は幼少時に漫画で読んで知った。上の写真中央の人物がジュディス・エッガー。旅とくつろぎを連想させるものとして、2 人とも浴衣を着用している。



Esquisse for Long Chopstick / 2008 年、紙にカラーペン

Long Chopsticks

(Performance with Judith Egger)

長い箸

（ジュディス・エッガーとのパフォーマンス）
2008 年
"A day in a life"
ZKMax, Munich / 仙台

ミュンヘンにいるジュディス・エッガー（写真左）と仙台にいる椎名勇仁（写真右）
が長い箸を使ってモニタ越しに食べさせっこをしているところ。

温泉地における電子音楽イベントに際して、制作･展示された作品。木目をモチーフとした作品を発展させたもの。
木目調のライトボックスを、発光する木造ロボットと見立てて造形し、古びた温泉会館に設置した。
金属製のロボットでは、温泉水で腐食してしまうからである。

GW5505 - Robot with a hot spring

ー温泉とロボット

2008 年
木材、和紙、粘着シート、蛍光灯
東鳴子会館
鳴子温泉音響フェスティバル「鳴響」
鳴子温泉郷 (宮城)

火山焼 / *Magma-firings* (2000-)

ある種の造形技法を開発するプロジェクトであり、活火山のマグマ熱で粘土造形物を素焼きする試みである。1998年に考案され、2000年にハワイ島のキラウエア火山で初めて実施された。これまでハワイ島や北海道、ストロンボリ島（イタリア）などで実施されている。このプロジェクトの主旨は、完成された彫刻作品を作ることだけでなく、その過程を示すことである。

An Egg of Snow Monster

2008 年
粘土、ロウ
蔵王（宮城、山形）

この作品は2008年制作のもので、蔵王のお釜（宮城県）での火山焼の様子。カルデラ湖のほとりに卵形の粘土彫刻を埋めている。卵はマグマ熱で温められ、やがていずれは孵化するのだろう。

The Photosynthesizers (2008-)

「フォトシンセサイザーズ」とは「光合成する者」を意味する造語。人間と植物のハイブリッドにアプローチする一連のプロジェクトである。人間が植物のような光合成能を持つことでどのようなことが起こるか、エネルギーや環境、身体の変形、といった事象を切り口に象形化していく。パフォーマンス、写真、ドローイング、映像、散文、造形作品、ブログなど、アウトプットの仕方は多岐に渡る。霊的には人間よりも遥かに高いレベルにあるとされる植物と身体的に共生することにより、精神面で利他的な人間存在となることが期待されているともいえる。

上の写真は、左腕にブロッコリ・スプラウトを植えたときのもの。フォトシンセサイザー仮説プロジェクトの最初の実践である。日焼けのため若芽の周囲の皮膚がむけている。

Practice i

2008 年 8 月 23 日
左腕にブロッコリ・スプラウトを植える
仙台

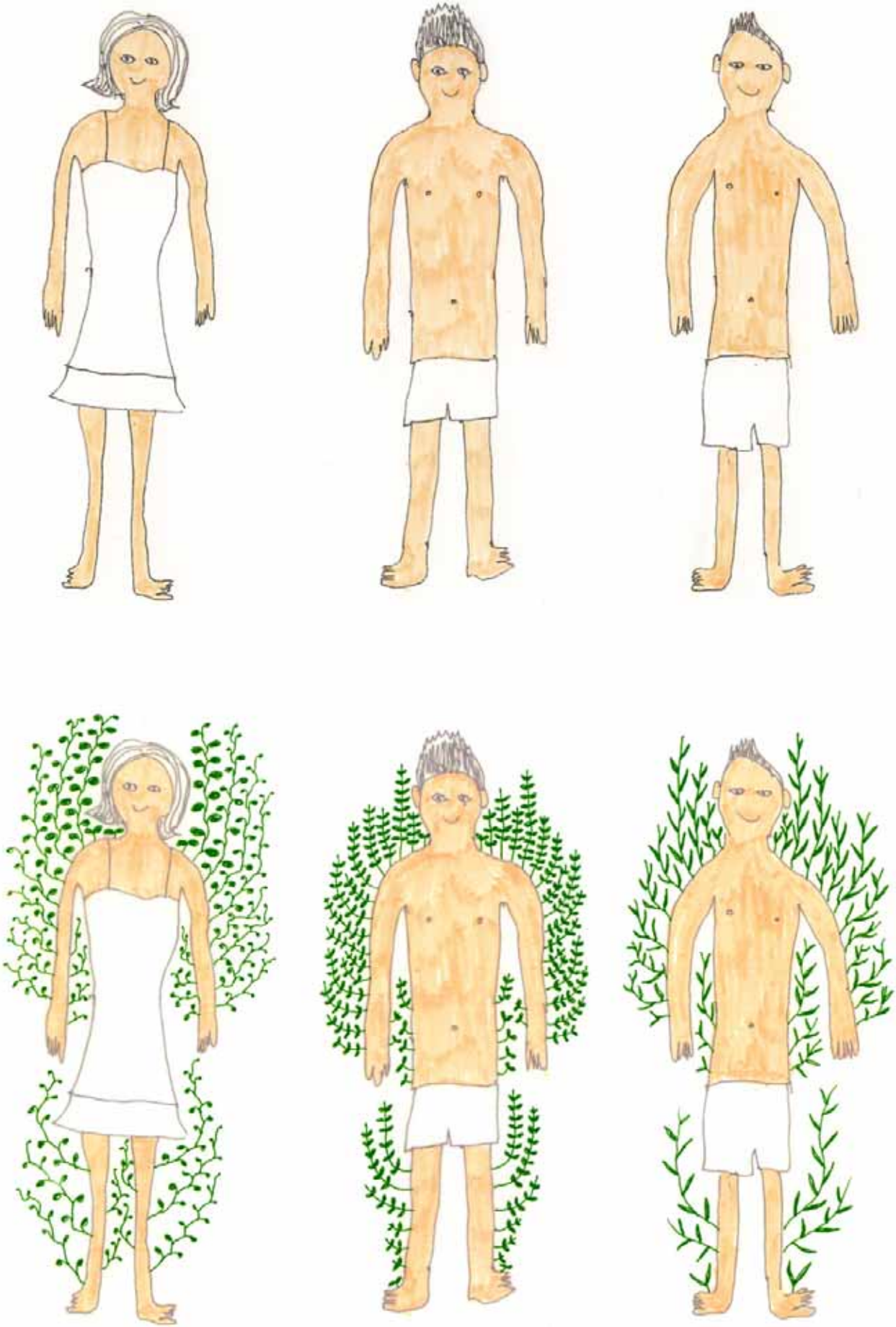
友人が教えてくれた話がある。
友人が子供の頃、野原で遊んでいた兄が目を真っ赤にして家に帰ってきた。
おおかた砂埃でも目に入ったんだろうと家族の誰も気に留めなかった。
ところが、一週間しても目の充血は止まず、痛みもひどくなるばかりだった。
心配した両親は、兄を眼科へ連れて行った。
診察してもらったところ、兄の目の中に雑草の種が入り込んでいて、根を生やしていたそうだ。
目の環境は植物の生長に必要な水分、空気、光に恵まれている。
温度も発根に適していたということらしい。

2008 年 10 月 13 日

Vegetable Growing in Tears

涙で育つ野菜

2008 年 10 月 13 日
左眼にブロッコリ・スプラウト
仙台

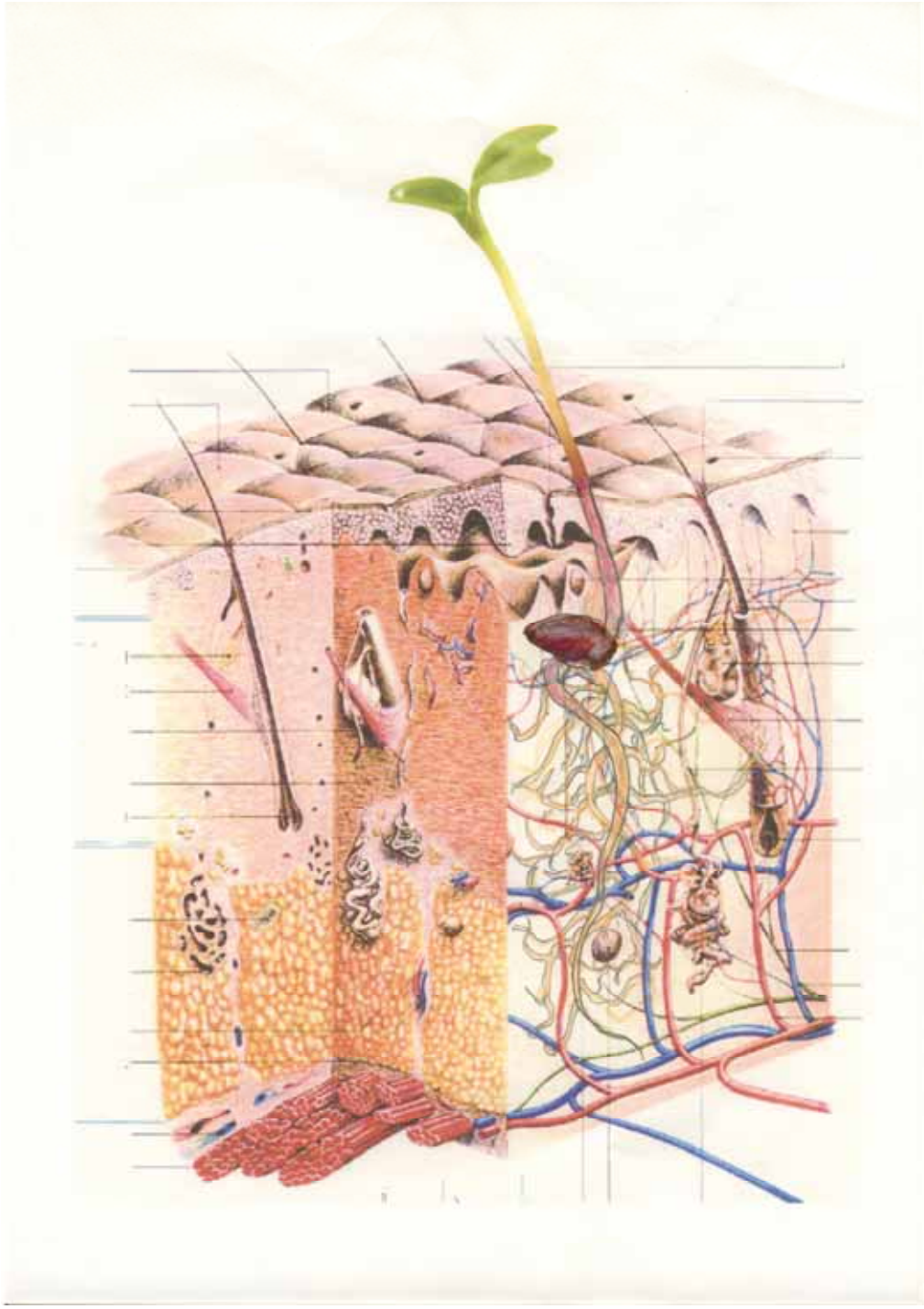


Two boys and a girl / 2008 年、トレーシングペーパーにペン、鉛筆

Photosynthesizers 初期設定 (2008 年)

計画の段階目標:

1. 人体内、あるいは人体表面における植物 (または藻類、葉緑体, 光合成細胞) と人間との共生状態を作る。
2. 人間の身体能力として、光合成能を獲得する。
3. 変形された人類の意識の変容を研究する。



断面図

2009 年
デジタル画像、サイズ可変

計画の目的：
・自然と人間存在、特にその可塑性に着目し、未見の人間像を探求し造形する。
・地球上に住む人類の、エネルギー、食糧、経済の諸問題を解決するための視点のひとつを提示する。
・上記を通して、人がより自由に豊かに暮らす方法を探り、視覚化する。

人体上に植物を育成させることの利点：
・植物の光合成により得られた養分を人間が直接的に摂取することができる。すなわちエネルギーの損失率が少ない。
・生産と消費のエネルギー収支を個人レベルで体感し、より健全な身体環境を作る。
・土地所有制度という既存の経済システムを回避し、人間社会における貧富・食糧・エネルギーの格差を緩和する。
・光合成による生産により実労働時間の短縮が期待され、人間はより自由な時間を持つことができる。

課題点と問題点：
・人体における植物の生育条件。
・人体という環境でどのような植物が育成されうるか。
・移植された植物に対する人体の免疫（拒絶）反応。
・光合成により生産されるエネルギーと人間生活により消費されるエネルギーの収支のアンバランスを解消できるか。(実際の生産性)

参考：
・人間は哺乳類の一種であり、母乳を生産する能力を持つ。光合成によって得た化学エネルギーを母乳に変換することができれば、他の個体とエネルギーを共有することができる。女性のみならず男性にも乳首があり、男性にも潜在的に母乳生産能があると思われる。

・動物的要素と植物的要素を合わせ持った生物は自然界に多く存在する。例えば珊瑚礁は、単細胞藻類に属し独立栄養生物である褐虫藻と、従属栄養生物であり刺胞動物のサンゴ虫との共生関係にある。このような生物の研究は私たちのプロジェクトにとってとても参考になるものだ。

・地上に生息する独立栄養生物である植物と、脊椎動物で従属栄養生物である人間とが共生することができれば、それは珊瑚礁のように美しく豊かなものになるであろう。

「古事記」より　（現代語訳：鈴木　三重吉）
—神々たちは、それでようやく安心なさいました。そこでさっそく、みんなで相談して、須佐之男命（すさのおのみこと）に、あんなひどい乱暴をなすった罰として、ご身代をすっかりさし出させ、そのうえに、りっぱなおひげも切りとり、手足の爪まではぎとって、下界へ追いくだしてしまいました。そのとき須佐之男命は、大気都比売命（おおけつひめのみこと）という女神に、何か物を食べさせよとおおせになりました。大気都比売命は、おことばに従って、さっそく、鼻の穴や口の中からいろいろの食べものを出して、それをいろいろにお料理してさしあげました。すると須佐之男命は大気都比売命のすることを見ていらしって、「こら、そんな、お前の口や鼻から出したものがおれに食えるか。無礼なやつだ」と、たいそうお腹立ちになって、いきなり剣を抜いて、大気都比売命を一うちに切り殺しておしまいになりました。そうすると、その死がいの頭から、かいこが生まれ、両方の目にいねがなり、二つの耳にあわがなりました。それから鼻にはあずきがなり、おなかに、むぎとだいずがなりました。それを神産霊神（かみむすびのかみ）がお取り集めになって、日本じゅうの穀物の種になさいました。須佐之男命は、そのまま下界へおりておいでになりました。

Ope / 2008 年、紙に色鉛筆

photo: Shinya Takatori

ワイルド・ストロベリーの種子を数粒、左腕に植えた。
消毒、切開から縫合までを 20 分ほどで行った。
会場は仙台市内にあるクラブの奥まったところにある一室。
次ページ掲載の映像作品「Sky is Fruity」が投影され、照明の役割を果たしている。(左ページ下写真)
患部のその後の経過を、ブログ「Photosynthesizers Journal」で随時記録、公表している。

ワイルド・ストロベリーの種子

Wild strawberry in left arm

左腕に野苺

2009 年 1 月 23 日
ソロ・パフォーマンス
「泉ヶ岳/UFO」
ADD、仙台

人体に果物の種を植えるパフォーマンスのための映像作品。
青空の中を果物がゆっくりと回転している。

Sky is Fruity

天空果実風

2009 年
DVD、8 分 42 秒

「Mt. Izumigatake（泉ヶ岳）」は仙台市近郊にあり市民に親しまれている山の名前。標高約 1172m。三島由紀夫の小説「美しい星」の中で、仙台在住の 3 人が UFO を目撃した場所であり、そのことがきっかけで彼らは自分たちが宇宙人であることに目覚め、後に人類の絶滅を企むことになる。上の写真は、彼ら宇宙人が UFO を目撃したのと同じ視点から撮影されている。

下の写真の下部中央に写っている山が、泉ヶ岳である。一見何の変哲もない山だが、「フォトシンセサイザーズ」を巡る物語の中において重要な位置を占める。

Mt. Izumigatake / UFO

2009 年
カラー写真
サイズ可変

仙台のオルタナティブ・スペース、Pangaea にて作品展示とイベント、パフォーマンスを行なった。
前掲の「Mt. Izumigatake / UFO」などの写真作品や映像作品、ドローイング、立体作品などを展示した。
フォトシンセサイザーズの物語、すなわち電磁波と水と空気から母乳を生み出す人間像を断片的に描写している。

Photosynthesizers

2009 年
展示/イベント/パフォーマンス
Pangaea、仙台

photo: Jamie Williams

左胸にマスクメロンの種子を一粒植えた。

左腕にワイルド・ストロベリーの種子を植えてから、1 週間後のことである。
前回同様、切開から縫合まで自ら行う。
前回と同じく、照明として映像作品「Sky is Fruity」を投影、患部のその後の経過を、ブログ「Photosynthesizers Journal」で随時記録、公表している。

私の胸にたわわなメロンが実ることを願って止まない。

Melon in left chest

左胸にメロン

2009 年 1 月 30 日
ソロ・パフォーマンス
「Photosynthesizers」
Pangaea、仙台

タンポポの種子を右足に植える。
ダダカンこと糸井貫二（写真左）に捧げるパフォーマンス。写真は、開口部を縫合しているところ。ダダカンが、もらったお金を燃やしメールアートとして友人に送り、自分は庭に生えているタンポポを食べて貧しい生活をしていた、という逸話に因む。ダダカンが 1970 年に行った「仙台路上儀」と同じ場所で行われた。

photo: Koichi Koike 小池浩一

Dandelion in right foot

右足にタンポポ

仙台路上儀「殺す菜」
2009 年 3 月 16 日
ダダカンこと糸井貫二に捧げるパフォーマンス
仙台

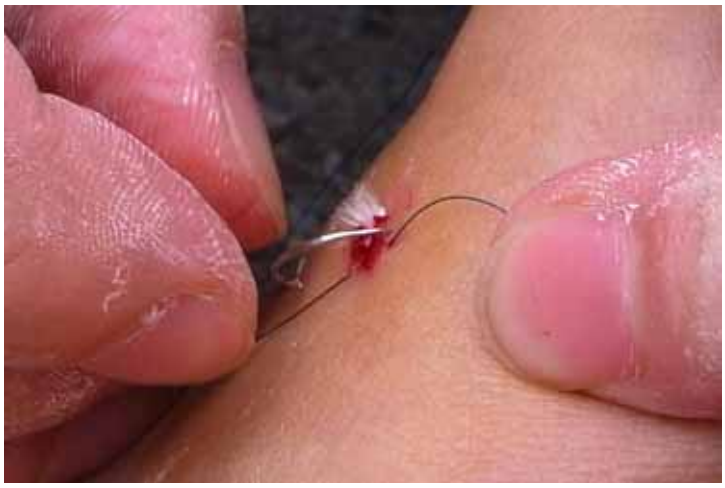


photo: Kuni

Dandelion in foot

足にタンポポ

2009 年
紙に色鉛筆

自身が見た夢の絵を描いてくださった小豆島の方々。計16名の方と共同制作を行った。

住民に睡眠中に見た夢の絵を描いてもらい、それらの絵をモーフィング合成して現れたイメージを基に制作された作品群。合成映像や彫像「夢の化身」を制作した他、布団を用いたインスタレーションを行った。モーフィングとはコンピュータグラフィックスの手法のひとつで、あるイメージから別のイメージへと滑らかに変形させる映像表現。モーフィングの語源は、ギリシア神話に登場する夢と眠りの神、モルペウスに由来する。モルペウスの名は「造形者」の意であり、人間の形に姿を変え、夢の中に現れる。眠っている人間にそっと真実を伝える神であるという。このプロジェクトは、互いに無関係な夢をあえて合成して1つの夢にすることで、夢＝極めて個人的な体験、を互いに共有する方法を探る試みである。それは誰にも見られることの無かった夢を形象化していくプロセスでもある。夢の中であなたは私になり、私はあなたになる。

Dreaming the same dream

同じ夢を見る

2009 年 3 月〜7 月
小豆島 AIR2009 spring
香川県小豆島町でのプロジェクト

追いかける夢を追いかける、追われる夢に追われる

2009年
15分55秒、DVD
住民の描いた睡眠中の夢の絵画 16 枚を合成していく過程を収めた映像作品。

（左ページ）

夢と太陽　Dreams and the sun

2009年
掛け布団、マットレス
「同じ夢を見る」
香川県小豆島町
滞在施設前にある児童公園でのインスタレーション。
周辺地域から集められた布団数十枚を日光に当てて干している。

上の図は、映像作品「追いかける夢を追いかける、追われる夢に追われる」より。
住民の描いた夢の絵の中の登場人物･動物をモーフィング合成してできた最終的な人物像である。
計20人+2匹のイメージが合成されている。
この合成イメージを忠実に立体化したものが右ページの彫像である。

夢の化身

2009年
鉄筋モルタル
身長約 85cm
「同じ夢を見る」
香川県小豆島町

photo: Noriaki Hayashi 林 憲昭

小豆島にある道の駅「オリーブナビ」を会場にしての展示発表。
住民の描いた夢の絵の原画16点、合成映像「追いかける夢を…」、彫像「夢の化身」の他、布団11組を天吊りするインスタレーション「羽毛」が展示された。
このプロジェクトを通して、「異なる背景を持つ人たちが同じ夢を見ることとは何か？」というロマンチックな問いかけを形象化している。

天吊りされたそれぞれの布団の枕元からは、睡眠中の夢について語る住民の声がかすかに流れている。これは夢を取材する過程で収録されていたものである。
布団のイメージは、小豆島に伝わるお祭り、布団太鼓に触発されたものでもある。

羽毛　Feather

2009年
布団、枕、オーディオプレーヤー、画用紙にドローイング
「同じ夢を見る」
オリーブナビ
香川県小豆島町

国の重要文化財に指定されている中山農村歌舞伎舞台でのインスタレーション。

（写真上）
展覧会期中、舞台裏である奈楽を会場にして展示を行った。「夢の中のメモ」「霊長」「追いかける夢を追いかける、…」「羽毛」などの作品で構成された他、農村歌舞伎で実際に使用されている衣装をお借りし、展示した。

（下図）
住民の描いた夢の絵の中の文字・言葉をモーフィング合成してできた謎のメッセージ。
これを生地にプリントしたものが、円筒形の照明具にされた。（上写真右側）

Note from dreams

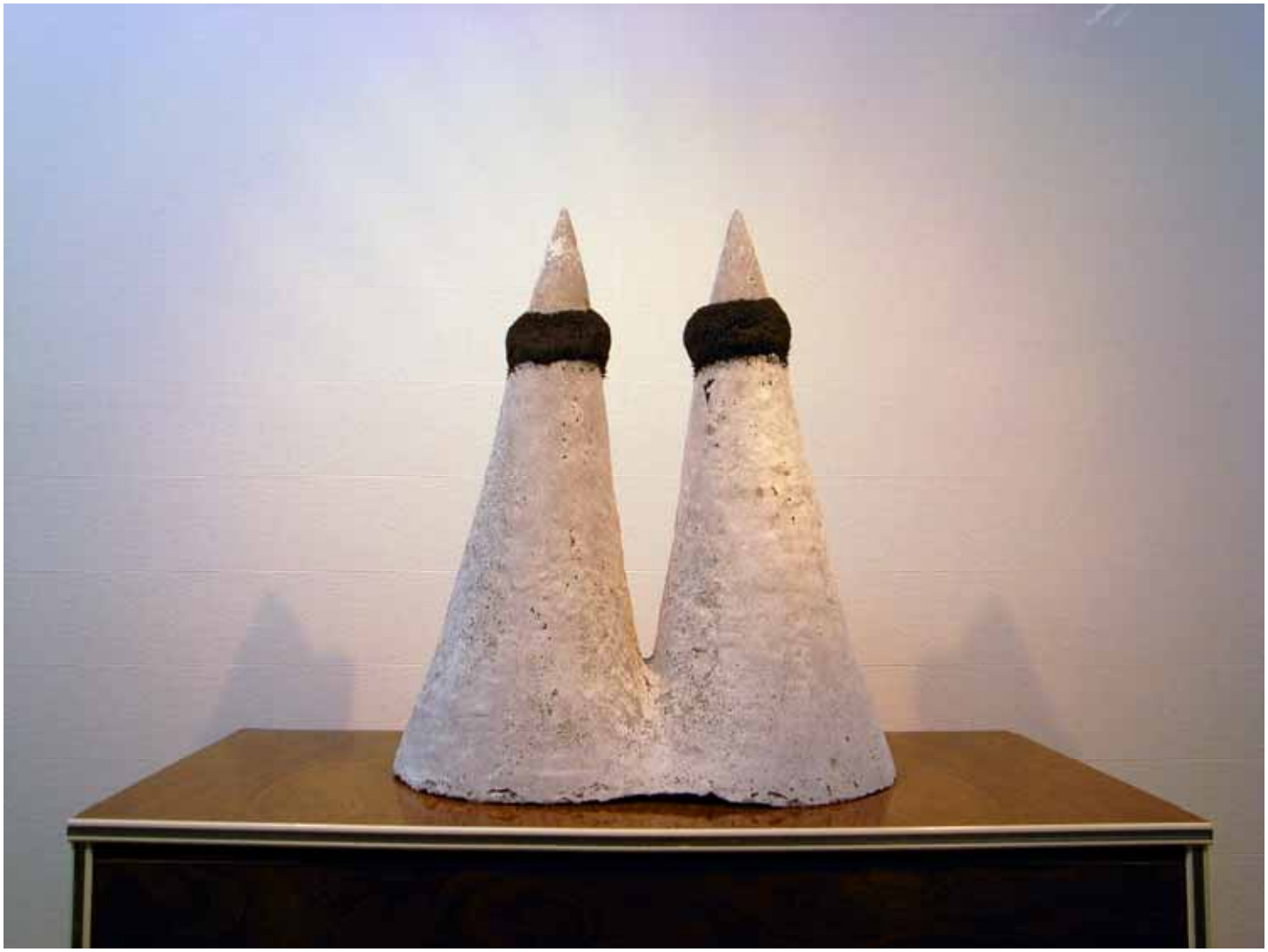
2009年
生地にプリント

展覧会の最終日には、表舞台に映像作品「追いかける夢を追いかける、…」がプロジェクター投影された。

桟敷から見た昼間の歌舞伎舞台。

奈楽　Naraku

2009年
中山農村歌舞伎舞台でのインスタレーション
香川県小豆島町



霊長　　The primate

「小豆島霊場八十八ヶ所巡りをする過程で偶然出会った霊能者が霊視する人物像の彫刻を作る。」との計画のもと、不思議なことに予定通り偶然出会ってしまった霊能者との対話を基に制作された私的かつ多義的な作品群。小豆島でのプロジェクトにおいて同時期の「同じ夢を見る」と対になっており、誰でも見た経験がある夢に対して、霊視という特殊な知覚現象を対置した。知的好奇心から始められたプロジェクトだが、そこで得たものは筆舌に尽くしがたいものがある。

小豆島で出会ったその霊能者とは、真言密教の僧侶であった。僧侶と1週間ほど寝食を共にし、あるときは島内を散策しながら、またあるときは夜が明けるまで対話を続けた。以下のページの作品は、彼が抱いたヴィジョンと彼の発した言葉とを私なりに解釈し、形象化したものの一部である。

霊長　The primate

2009年3月～7月
小豆島AIR2009 spring
香川県小豆島町でのプロジェクト

（左ページ）

音叉　Tuning fork

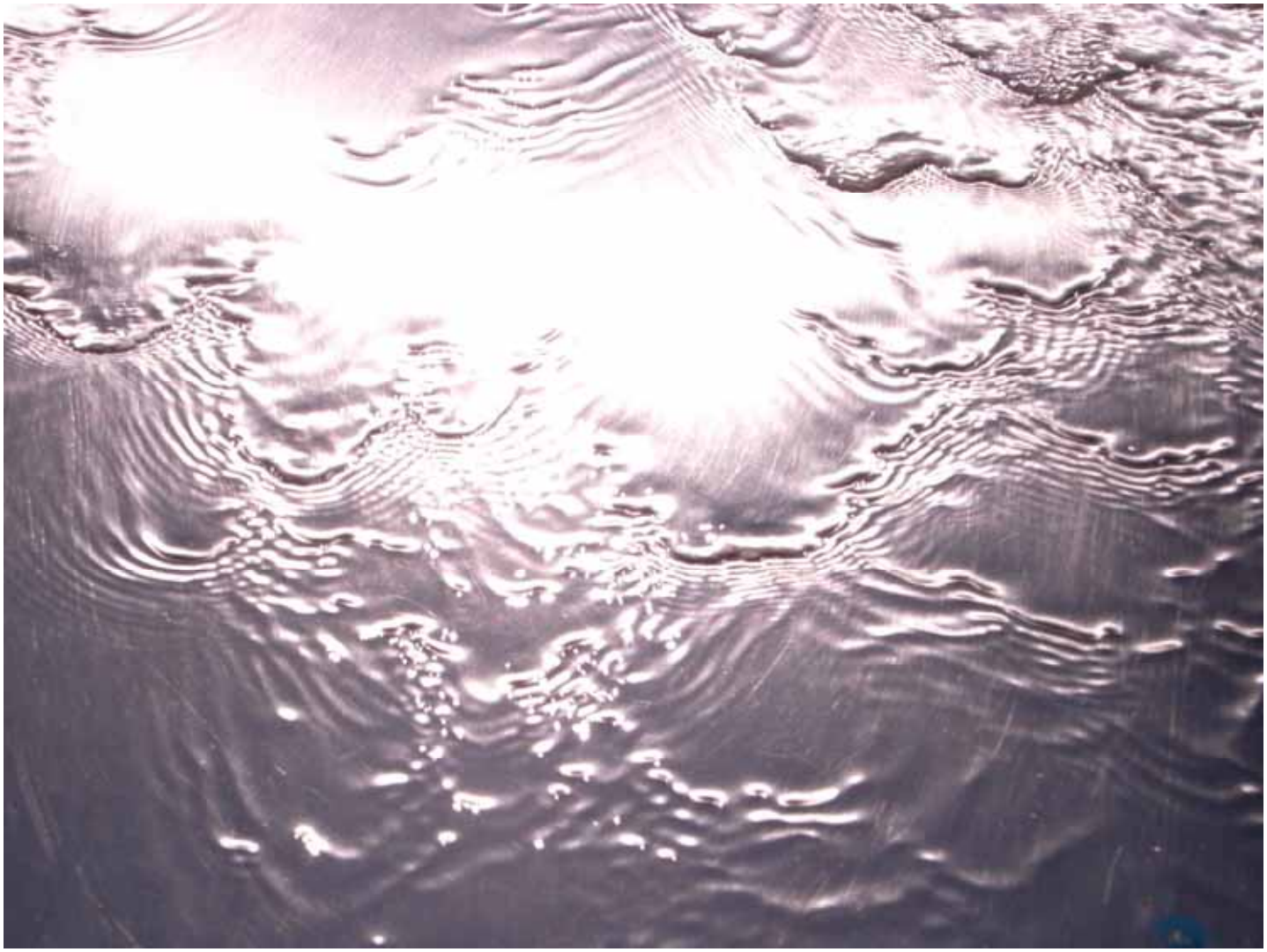
モルタル、磁石、砂鉄、アンプ、スピーカー、オーディオプレーヤー、子供箪笥
w48×h57×d28cm
椎名の背後にいるという 2 人の人物を形象化した作品。千里眼を持つその僧侶によると、人が一度でも抱いた思念は消えてなくなるわけではなく、その人に砂鉄のようにくっついている。祈ることとは、その砂鉄を一粒づつ摘まみ取り、神仏に引き取っていただく行為であると言う。作品内部から微かに聞こえてくる振動音は、僧侶の奏でるギターの音とサイン波の音を合成して作られた。

新鮮な野菜　Fresh Vegetable

モルタルに着彩
僧侶との対話で、椎名は過去に拾ってはいけない石を拾ったがために、不遇の一生を送る運命にあることを宣告される。だが、椎名は芸術家になるべくして生を受けたのであり、これからますます制作活動に励め、指先から世界に発信せよ、と切ない激励を受ける。泥酔しながらその言葉を聞いていた椎名は、その時たまたま食べていたレタスのようにシャキシャキに新鮮な作品を作ることを決意するが、その後作られたレタスの彫刻は、レタスとは似ても似つかぬものであった。

溶けゆく太鼓　A melting drum

2009 年
シリコンゴム、磁石、砂鉄、ポリ塩化ビニル、コンクリート台
椎名の背後にいつもいるという女性を形象化した作品。この人物のために椎名には女難の相があるという。



Rising dragon / scene from “The primate”

2009年
6 分59 秒、DVD
ある日、僧侶と 2 人で、近くにある滑り台に水を流して遊んでいた。彼によると、この滑り台は竜王様の降りてこられる通路であり、彼には流れる水の形象の中に竜王様のお顔に見えるという。竜神は悪い思念を避けて泳ぐ存在で、喫緊の願いをかなえることができるという。

Mountain
濡らした両手で印を結ぶ様子。

(左ページ)

海の上の木　A tree on the ocean

2009 年
モルタルに着彩
僧侶によると、偶然というものはなく、全てはあらかじめ決められているという。椎名がこの僧侶と出会うことも、拾ってはいけない石を拾うことも、粘土を扱う彫刻家になることもあらかじめ決められていた。深い闇を持つ自分を知ることは怖いことであるが、闇が無ければ光は前へ進めない。光だと思っていた自分は影になり、影だと思っていたものが光になることもあり得る。これから私が話すことを決して人に話さないで下さい。

二十四の瞳（六の瞳）　24 pupils (6 pupils)

2009年
サングラスを接合、テグス
僧侶に初めて出会った時に、「私の後ろに何か見えますか？」と問いかけたところ、「見ることは断片的なものに過ぎない。」と軽くたしなめられた経験に基づく作品。タイトルは小豆島を舞台にした同名の映画にちなむ。

（右ページ）

Psy

2009年
スズ、小砂利
小豆島で出会った霊能者は宗教者であり、仏教徒であった。釈尊の言葉「サイの角のようにただ独り歩め。」の話題になり、「なぜサイなのか？」と尋ねたところ、「サイは草食でおとなしい動物だが、立派な角を持っており、肉食獣も容易には近づけない。サイは猛獣がやって来ても恐れず逃げない。それぐらい静かに強いってこと。」と教えられた体験にちなむ作品。

ここまで 2006 年から 2009 年までの作品を見てきた。私は 2005 年には全く制作活動をしていないので、ここに掲載されている作品は、2000 年以降の私の活動の中で大きな位置を占める「火山焼」の後の展開ということになる。「火山焼」は、地球上のほとんどの鉱物の源である火山という場所で、同じく鉱物である粘土から作られた塑像を焼き上げようとすることにより、物質の変容を通して時間の可塑性について考察するものだった。その後、2 つの夢を見たことがきっかけで、過去の時間はあらゆる物質の記憶としてとどまり、物質とはその実体を突き詰めれば私たちが「映像」と呼ぶものに近いのではないかと気が付いたのだった。その発見が、冒頭のページの「Starring You」というインスタレーションになっていき、それから今まで、人間の精神という幻のようなものを追い求め、それを形象化しようとしてきたように思う。当初からこの発見の帰結がいわゆる唯我論に陥るかもしれない危険性を感じていたこともあり、「Urato Drift」「Kappa Complex」を筆頭に他者とのコミュニケーションを媒介とした活動が多くなっている。「Kappa Complex」は「河童とは水棲人類である」との前提で始まり、河童体験者のイメージを合成し河童像を作ることを通して人間存在そのものを造形することを意図していた。それがここ 2009 年になって奇しくも再び夢というモチーフに立ち返り、また同時に霊視という未知の領域に踏み込んでいくことになった。そこで得たものを言葉にするには、これからさらに検証が必要だが、ある予感めいたものを感じていることも事実だ。例えば、千里眼を持つその僧侶によると、人が一度でも抱いた思念は消えてなくなるわけではなく、その人に砂鉄のようにくっついているのだという。この考えは私が 2006 年に直感した「過去の時間はあらゆる物質の記憶としてとどまり、...」のアイディアに酷似している。僧侶の言葉から、私は砂鉄を用いた作品（「Tuning fork」など）を制作したが、それではまだ足りないと思っている。また、火山焼と同時期の 2000 年頃からのアイディアである「Photosynthesizers」を具体的に作品化し始めたことも、これまでの活動の中でのもう 1 つの大きな出発であった。「Photosynthesizers」は、人間と植物のハイブリッドを探る、というやや SF 的なモチーフだが、種子を人体に植えるという具体的なパフォーマンスは、2007 年に山形県に多く残っている即身仏を取材したことの影響が大きい。人間や自然世界の霊性は肉体や物質および形態とどのように関わっているのだろうか。今は彫刻の制作を通してそれらを形象化したいと考えている。（椎名勇仁、2009 年 9 月）

目録

ページ構成は制作年順。■は、プロジェクト名またはコンセプト。カッコ内の数字は制作年。

■Matter = Image (2006-2008)

Starring You (2006)
Summer Weeds (2006)
Black Opal Portrait (2006)
舌禍 Y (2006)
Milky Universe (2007)
舌禍 X (2006)
飛び道具 (2006)
Grain in Dream (2007)
レッドミルクのための習作 (2007)

■Urato Drift (2007-)

A day, a night
Urato Drift 2007

消えぬ魔球 (2007)

■河童複合 Kappa Complex (2007)

Work for Water People
見えない水かき
河童がいない。
Sketches for Kappa Complex
現代河童聞合
ワークショップ「見えない水かき」
河童は海の向こう
Kappa Complex A (Head)
Kappa Complex B
Kappa Complex C (1x1)
河童は海にもいる
河童について

z=0.00 (2007)
Long Chopsticks (2008)
Esquisse for Long Chopstick (2008)
GW5505 (2008)

■火山焼 Magma-firings (2000-)

An Egg of Snow Monster (2008)

■The Photosynthesizers (2008-)

Practice i (2008)
涙で育つ野菜 (2008)
Two boys and a girl (2008)
Photosynthesizers 初期設定 (2008)
断面図 (2009)
Ope (2008)
左腕に野苺 (2009)
Sky is Fruity (2009)
Mt. Izumigatake / UFO (2009)
Photosynthesizers (2009)
左胸にメロン (2009)
右足にタンポポ (2009)
Dandelion in foot (2009)

■同じ夢を見る (2009)

夢と太陽
追いかける夢を追いかける、追われる夢に追われる
夢の化身
羽毛
Note from dreams
奈楽

■霊長 The primate (2009)

Tuning fork
溶けゆく太鼓
海の上の木
新鮮な野菜
24 pupils (6 pupils)
Rising dragon / scene from “The primate”
Mountain
Psy

椎名 勇仁（しいな･たけひと）
1973 年、岩手県花巻市生まれ。活火山のマグマ熱で塑像（粘土の彫刻）を素焼きする「火山焼」のプロジェクトで知られる。彫刻を中心に映像、音声、身体表現などを介した特異な方法論による制作活動を行う。

http://shiinatakehito.com/

2009 年 11 月 13 日作成